

スバル株式会社

業種	製造業	事業所所在地	愛媛県四国中央市	資本金	18,500千円
				従業員数	16名

 	被承継者（左）		
	宇高 道男	87歳	※承継時
	承継者（右）		
	宇高 尊己	63歳	※承継時

事業承継を行った時期	被承継者と承継者の関係	
2017年10月	子ども	
承継前の主たる事業の内容	承継前の主たる事業の課題	
現在と同じく紙加工業として事業を行い、主として便座シートやお茶パックの製造を行っていた。	・既存商品・サービスの売上高の拡大	便座シートの売上が減少し、課題となっていた。

事業承継を実行するまで		
きっかけは？	承継計画の立案	承継までの不安と準備
承継実行の 2年前	被承継者と承継者で話し合ったこと	被承継者の承継に対する不安
弊社の創業時からのビジネスモデルとして営業員をおかず株主6社の営業網で販売をする方針であったが、年々売上げが減少。製品群の改変、高付加価値商品の開発強化・直販体制等ビジネスモデルの再構築を検討することを打合せ済。	製品群の改変、新製品の開発、直販体制の構築等従来のビジネスモデルの再構築をする。	・廉価品の値上げ、商品整理による売上げ減少 ・高付加価値商品が市場に受け入れられるか否かの不安
	関係者との調整	承継者の承継に対する不安
	施製造部門との高付加価値品の増産体制についての検討、営業員の新規雇用、不採算製品軍の整理統合。	・直販営業活動と従来販路のバッティング ・売上げ減少

これに一番苦労した！
高付加価値の商品の販路拡大。（中小機構の販路紹介事業や見込み客の確保）

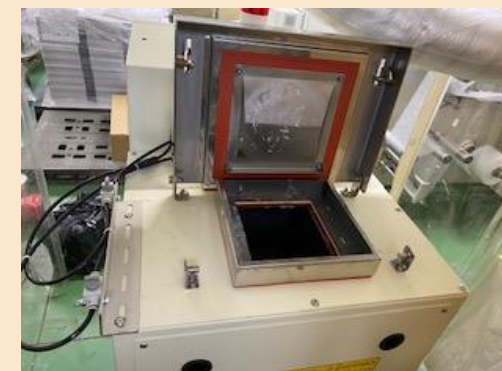
事業承継について相談したこと	
相談した機関の業種	承継に関して受けたサポート内容
金融機関（信用金庫）	事業承継補助金の存在を伝えてくれ、その後のサポートも行ってくれた。
いつから相談？	
承継実行の 1年前	
相談のきっかけ	
事業承継のために承継者または被承継者自身がアプローチした	

経営革新等に係る取組の標題

天然コットン100%不織布の熱融着による安心安全なお茶パックの生産体制の確立

経営革新等に係る取組の内容	商品の新たな生産又は販売の方式の導入
---------------	--------------------

- 従来のお茶フィルターにはプラスチック不織布が用いられていたが、天然素材のコットン100%で製造することにより、環境にやさしくおいしいお茶を抽出することが可能になる。しかし、コットン素材は熱融着ができず量産、商品化が困難であった。
- そのため、独自で研究を重ね飲料フィルターを袋状に加工するにあたって、熱融着ではなく特殊なホットメルト（糊）を使用するノウハウを確立した。これにより、精製純度の高いコットンリント（繊維）を使って、夾雑物をなくし、素材のにおいを抑え、茶葉のエキスや香りを十分に引き出せるようになる。
- 本補助事業でホットメルト糊タンクを導入したことで、コットンお茶パック製造工程における製袋能力の向上により増産体制を整え、市場拡大と品質の高度化に対応する。



地域経済やバリューチェーンへの貢献	補助対象経費の内訳		
不織布メーカーへの発注量の増大（約20%アップ） 雇用拡大（販売員・開発要員）	<table border="1"> <tr> <th>経費の主な使い道</th> </tr> <tr> <td>設備費（ホットメルト糊タンク導入費）</td> </tr> </table>	経費の主な使い道	設備費（ホットメルト糊タンク導入費）
経費の主な使い道			
設備費（ホットメルト糊タンク導入費）			

認定経営革新等支援機関の名称： 観音寺信用金庫 四国中央支店

認定経営革新等支援機関から受けたサポート内容

<input checked="" type="checkbox"/> 制度内容の理解	<input checked="" type="checkbox"/> 事業計画の立案	<input checked="" type="checkbox"/> 各種提出書類の作成	<input type="checkbox"/> 補助事業の実施
---	---	---	----------------------------------

認定支援機関に事業計画の立案から資料作成までサポートを受けた。

今後に向けて～次の目標	
2019年から2022年に向けて	生産体制を交代制にして200%
売上高 25 %UP	

これから事業承継に取り組む事業者の方へ	
被承継者からの一言コメント	承継者からの一言コメント
死去のためコメントなし。	承継作業は社内の合意のもとできる限り迅速に目標を定め速やかな決断が必要であると痛感しました。